

2024・12月1日 vol.26



## こども食堂 北海道ネットワーク 通信

いよいよ雪が降りましたね。あっという間の12月です。運営者のみなさま、これからの4か月、暖房費が大いに気になりますね。基本のお米も値上がりが大変です。ほんと、頭が痛い…子どもたちに元気でいてもらうためにも、みなさんもお自愛なさり、今一度、頑張りましょう！

### 「たばちゃん食堂」さんをお訪ねしました。

11月10日(日)、「たばちゃん食堂」(札幌市中央区南10条西9丁目1-7「みんなの休憩処ひとてま」)田畑利恵さんをお訪ねし、お話を伺いました。



(右から2人目が田畑利恵さん。経験深いスタッフの方々と)

田畑さんは札幌市中央区の中島児童会館のスタッフを9年(児童会館職員歴19年)勤めておられたそうです、「じゃ、この道のフ口なんですね！」と申し上げると「子どもたちが大好きで、大事に思い、絆もありました、そこに2022年に予期しない転勤があり、中島児童会館を離れなければならないことになりました。親の目の行き届かない子どももいて、どうにも心配でならず、まだまだ関わって行きたい子どもたちでした。そこで、考えた末、中島児童会館の近くの地域で子ども食堂を開くことにしました。」とのこと。その後転職もされ、今は自立援助ホームに務めていらっしゃいます。食堂を始められたのは2022年6月から。同じ思いのスタッフ6人と月に二度、第二日曜昼と第三木曜夜に開いています。

第二日曜は、定例開催となっていて、参加費は全員無料、毎月、寄付をしてくれる企業はないかと探しているところのほか、アマン欲しいものリストからの寄付にも頼っているそうです。食堂には、毎回25人から30人が集まります。お訪ねした日は11時から人形劇団「ぼんたろん」のお二人が腹話術や人形劇「さるかに」を上演していました。座布団に座った子ども



もたちは真剣な表情で大喜び！おでかけ人形劇(札幌市こども人形劇場こぐま座企画事業)は以前から児童会館で開催されていましたが、今後、子ども食堂で開催してみたいと、初の試みで観劇機会をいただいたそうです。11時から三々五々子どもたちが集まり始め、14時まで食事をしたり遊んだりしているそうです。14時からは「いとこんち」スタッフが引継ぎ、3時半まで学習の時間となります。(学習タイムは2024年11月で終了)

ご飯を「おかわりいい？」と遠慮がちに聞く中学生の女子に「いいよ！食べなよ」とご飯をよそう姿は、阿吽の呼吸で二人の信頼関係が伝わってきました。

もう一方の木曜夜の食堂は、中島児童会館の職員から土曜日は、朝食も昼食も食べずに遊んでいる子どもが多い気がするという情報が入っていて、ただいま、日にち変更を検討中だそうです。(こちらは、市民活動プラザ星園で行われています。)'みんなの休憩処ひとてま'は、昭和の香りのする古民家です。ここに住んでいらしたご夫婦が地域のためにと、貸出を行っている建物です。困りごとはないですか？とお聞

きしますと「ここもいいのだけど、2024年12月から「ひとてま」が使えなくなってしまうので、何とかこの近くで使っていない家や空き店舗を無償か格安で貸して下さる人はいらっしゃるかどうかと探しています。最大の問題が場所ですね。拠点かほしいんです。荷物をずっと置けたり、開催日を



自由に設定できたりすると助かるのと寄付の品が今は私の自宅に届けてもらっていますが、それを毎回運ぶのも大変なので…」とおっしゃっています。貸して下さる良い場所をご存知の方はぜひ、

[lead2happiness@yahoo.co.jp](mailto:lead2happiness@yahoo.co.jp) まで、メールでご連絡をお願いいたします。たばちゃん食堂の日を待っている子どもたちのために、早く拠点が見つかりますように。ご活躍祈ります。

## パネル展のご報告 10月18日&19日

昨年 8 月、弊ネットワーク加盟団体様の開催チラシ(パンフレット)設置と、運営者様自身による周知活動を、パネル展の形式で行いました際、期待以上の手応えがありました事と同時に、まだまだ認知の低さを実感しました為、今年度も同様にチ・カ・ホ(札幌駅前通地下広場)にて、10月18日(金)~19日(土)の週末二日間で開催致しました。(昨年の様子は、バックナンバーにてご確認ください)今回も「北海道」「札幌市」の後援を頂き、マスコミ各社への周知も行いました。

パネルでは、子ども食堂の基本的な説明や、北海道内で 300 ケ所(札幌市内 100 ケ所)を越える子ども食堂の開催現状、地域連携や運営状況、発展した子ども達への支援状況などを簡潔な説明と共に掲載しました。

チラシ(パンフレット)設置では、各振興局や札幌市内(区ごと)に分けて、わかりやすいよう並べました。

子ども食堂を「利用したい」と探す親御さんには、ご自身が住む地域をご案内し、身近な開催団体様を探されていました。「ボランティアとして参加したい」という方も多く、先ずは同じく、地域からのご選択を促しました。「寄付などで支援したい」と仰る方には、個別に

団体様と繋がるようご紹介をして、チラシなどをお渡ししました。

(チ・カ・ホでは、寄付行為が禁止となっています)

「こんなに多くの子ども食堂があるとは知らなかった！」

「今の社会は、こんな事になっているのですか!？」

「子ども達の為に頑張ってください!応援しています！」

「子ども食堂を開きたい」「ボランティアしたい」という方々など、多くの賛同や応援を頂戴しました。一般の方々への認知向上として「パ



ネル展」は、一つの役割があるのだと再度、実感致しました。反面、

「子ども食堂に行きたいのですが…」と、切実な想いをお持ちの方も多くいらっしゃっていました。残念でしたのは、日常で「探しても見つけれなかった」「いつ開催してるかわからない」「連絡方法がわからない」というご相談が多かった事です。身近な運営場所をお伝えしたくても、その地域の開催団体のチラシが届いていない場合や、設置したチラシの開催日が過去の為、信用が得られなかった場合もありました。(改善の方法として、以前よりご協力頂いています弊ネットワークの名簿登録へも、是非ご協力ください。)

ご参加された運営者の皆様も、道行く人々にお声掛けくださり、ご自身の団体説明だけでなく、他団体のご紹介など、積極的にコミュニケーションを取って頂き、誠にありがとうございました。

今回は、認定 NPO 法人 全国子ども食堂支援センター「むすびえ」から、北海道各地の実態把握に来道され、パネル展開催時の現場協力にご尽力いただきました。

行政関係では、札幌市子ども未来局 / 子どものくらし支援担当係長・河村氏が訪れ、状況を確認されていました。マスコミ関係は、北海道新聞社様が記事掲載してくださいました。

パネル展を通じて、個別に直接繋がった旨のご連絡も頂いています。一つ一つコツコツとした動きではありますが、今後も弊ネットワークの活動にもどうぞご協力くださいますよう宜しくお願い致します。

遠藤 輝幸 記

(編集・飯田 澄子)

子ども食堂  
北海道ネットワーク

〒003-0803

北海道札幌市白石区菊水三条4丁目1-3

こくみん共済COOP北海道会館4階

☎ 011-841-8601

[https:// ks-hokkaido.net](https://ks-hokkaido.net)

[info@ks-hokkaido.net](mailto:info@ks-hokkaido.net)

